

保存・継承グループ 活動紹介

「大和は国のまほろば」

現在奈良県には有形世界遺産 3 箇所・無形世界遺産 1 件がある。うち東大寺正倉院には 9000 点を上回る宝物がある。これらは地上の木造の建築物に 1200 年以上に亘り保存されてきた宝物で世界の有形文化財の奇跡といっても過言ではない。一方東大寺「二月堂修二会」（お水とり）は 1250 年余連綿と続けられ、「春日若宮おん祭り」は 870 年余り途切れることなく行われてきた。どちらも起源・記録・規模において世界遺産の「題目立」を遥に凌駕する無形文化財と言えるのではないか。このように大和は国のまほろばを超えて世界のまほろばと言えよう。

しかしながら、昨年 600 年余り引継がれてきた「大柳生の太鼓踊り」が中止されるというニュースが伝えられた。この種の報道は、全国的に良く聞くニュースである。その理由として農山村の過疎化が挙げられている、それも一つの理由であるが、根源的な理由としては、今まで集落の構成員が共有していた価値観が失われつつあるのではないか、即ち集落の為・祖先の為・仲間の為・子供たちの為等自分の為には一銭にもならない事を散財しながら行うことはアホらしいことだと考える人達が多くなったと推測される。つまり儲けに成らないことは やらない時代になりつつあると言えよう。

この課題に対して世の識者は、国や自治体に保護をもとめるが、今や日本は国も自治体も財政逼迫で特に奈良県は赤字自治体が多く全く期待できない。

そこで、これらの課題を解決できる唯一の方法は奈良県民を中心にした第二の人生を歩み始めた中高年の人達、特に奈良県の地理・歴史・文化等に興味を持ちソムリエの資格を取得した人達の活動に期待したい。その活動内容は、奈良県下の有形・無形文化財の現状把握するために、それらを所有・所持する人達との交流ありきである。次に、これ等の人達と保存継承にたいする課題の発見・整理・解決策を見出す過程で、関係機関や地域住民との交流を深め課題を解決していく為の触媒の役割を果たして行こうではありませんか。

これこそが我々に与えられた社会的使命ではないでしょうか。

奈良の自然や文化財が確実に未来へ引継がれていく事こそ我々の願いであります。

以上